

高知市地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(令和5年度)

高知市基礎データ

合併状況: 平成17年1月に2村(鏡村・土佐山村)を編入合併
平成20年1月に1町(春野町)を編入合併
人口: 316,984人(令和5年10月現在) 面積: 309.00km²

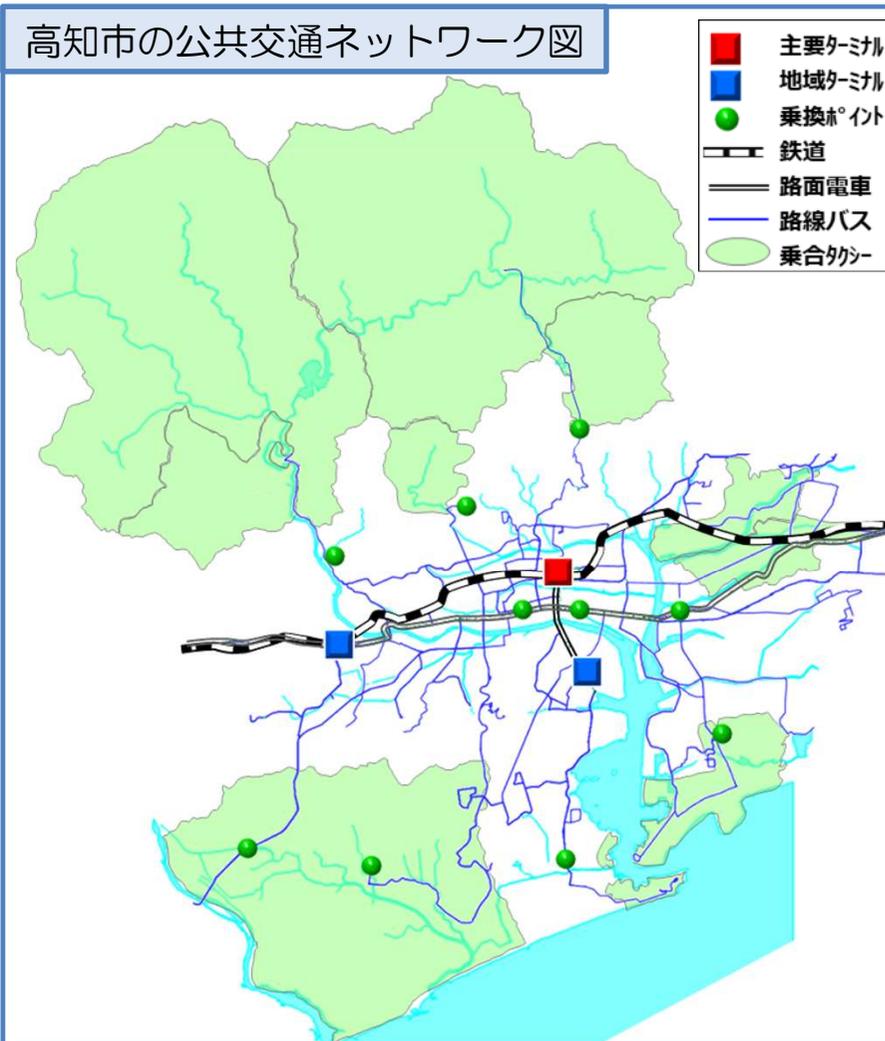
高知市における主な公共交通概要

- 鉄道
 - ・JR土讃線
- 路面電車
 - ・はりまや橋交差点を經由する伊野ー後免線,
高知駅ー棧橋線
- バス(幹線)
 - ・はりまや橋交差点を中心に高知市周辺市町又は市内
周辺部同士を結ぶ民間事業路線
- デマンド型乗合タクシー(路線運行, 区域運行)
 - ・鏡地域 ・土佐山地域 ・春野地域 ・円行寺地域
 - ・御畳瀬地域 ・浦戸地域 ・長浜地域 ・行川地域
 - ・久重地域 ・大津地域 ・布師田地域 ・三里地域

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

高知市の公共交通ネットワーク図



高知市地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(令和5年度)

協議会の構成員

- ・学識経験者 ・四国旅客鉄道 ・とさでん交通(株) ・(株)県交北部交通
- ・高知市ハイヤー協同組合 ・身体障害者連合会 ・町内会連合会
- ・老人クラブ連合会 ・四国運輸局 ・高知県警察
- ・私鉄高知県連合会 ・道路管理者(国・県・市) ・高知市

前年度の事業評価における課題

○住民ニーズに対応した運行
地域から運行に関する提案等があった場合は、地域の会や地域公共交通会議で協議を行い、よりよい地域交通を目指す。

定量的な目標・効果

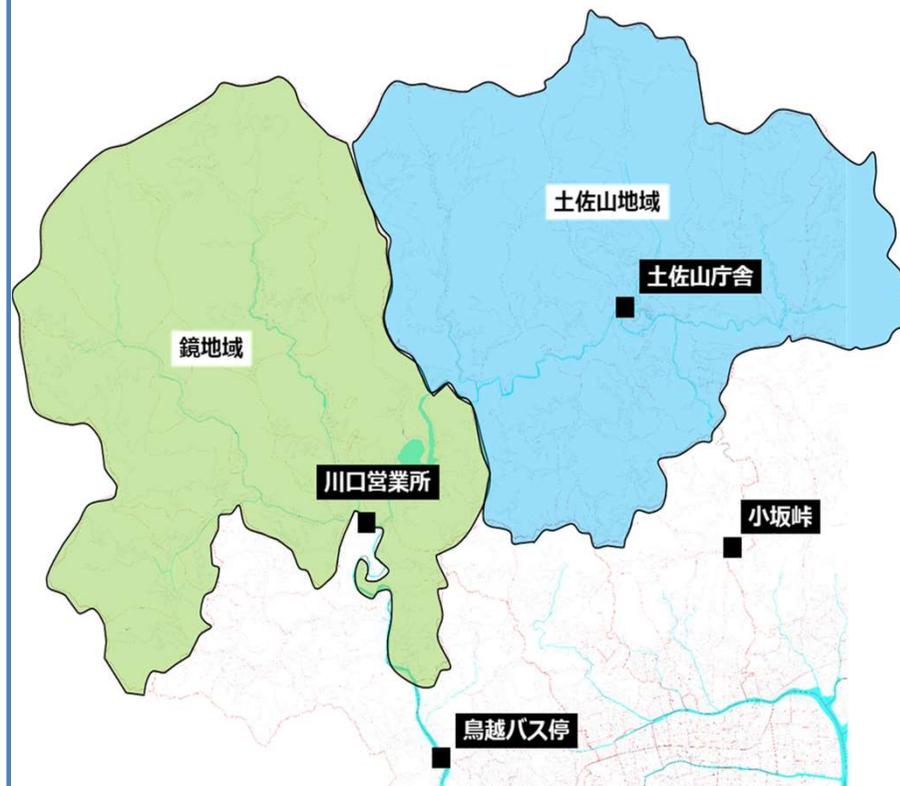
(目標)

- 鏡地域 年間利用者数 1,570人(130人/月)
- 土佐山地域 年間利用者数 3,640人(303人/月)

(効果)

- ・区域運行であることで利便性が向上し、運行時刻を路線バスの発着に合わせているため、市中心部への移動手段としても活用でき、外出促進や高齢者の健康増進にもつながる。
- ・土佐山地域においては、地域内の学校への通学バスや、診療所の患者送迎バス等をデマンド型乗合タクシーへ集約することにより、地域に根差した移動手段として定着させる。

フィーダー系統図



「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- 地域住民が参加する地域の会で意見交換を行い，地域住民の意見を聴取した。
- 高齢者が利用しやすい時刻設定，乗降しやすい利用環境整備の要望を受け，幹線バス事業者と接続ダイヤを調整するほか，のりおりばとする量販店等の協力のもと，乗降場所の環境改善を図っている。
- 土佐山学舎の学校関係者や市の教育委員会と協議をし，保護者向けに利用方法の説明会を実施した。
- スクールバス機能を集約した通学便は定量的な目標の対象外としているが，その他の便についても周知することで，利用促進効果を狙っている。

自己評価

事業実施の適切性

乗合タクシーは，バスの入れなかった狭隘な道まで進入することができ，また，区域運行であることから路線バスよりも格段に広い範囲の住民が利用でき，高齢者でも出かけやすいという安心感もあるため，地域交通の役割を果たしている。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- 鏡地域…年間の利用目標1,570人（130人/月）に対し，1,179人（98人/月）の実績となった。
前年度比で延べ391人の利用者減，往復での利用とすると延べ196人減となる。
運行事業者の顧客データの分析によると，これまで定期的に利用していた地域住民の高齢化が進み，市街地の施設や病院へ転居したり死亡する例が増加したことにより，利用者の減少が顕著になっている。
- 土佐山地域…年間の利用目標3,640人（303人/月）に対し，3,966人（331人/月）の実績となった。
デマンド型乗合タクシーに集約した地域の診療所やデイサービスの送迎機能も定着し，地域の移動手段としての役割を果たしている。
（なお，地域内のスクールバス機能を集約した通学便は，地域間幹線バス系統との乗り継ぎを想定していない運行ダイヤであるため，目標利用者数及び実績数からは除外している。）

今後の事業に向けた改善点

鏡地域では、利用者数が目標を下回った一方で、土佐山地域は、デマンド型乗合タクシーに集約した診療所等の送迎機能が定着し、目標を達成した。

今後も利用状況の経過を注視しつつ、引き続き地域とともに利便性向上に努め、地域住民や学校関係者との協議の場や地域公共交通会議において状況報告や意見聴取するなどして、地域のニーズに応じた運行ができるよう改善を図る。

その他PRポイント

令和4年10月より、日曜祝日に運休となるバス路線の代替として、鏡・土佐山それぞれの地域で日曜祝日運行便の一部路線延伸を行った。(鏡・土佐山両地域とも往復6便を延伸)

市街地近くまで延伸したことで路線バス等への乗り換えの利便性を向上させたほか、乗り換え場所付近の量販店でも乗降を可能にしたことで、買い物のための生活の足としての機能を強化させた。